

## 第1回岩倉市子ども行動計画策定委員会 議事録

日 時 平成24年7月9日(月)午前10時から  
場 所 岩倉市役所 第3委員会室  
出 席 者 委員8名、市長、事務局7名

議 事 (1)委員長及び副委員長の選出  
(2)子ども条例及び子ども行動計画について  
(3)子どもの参画(ワークショップ案)について

配布資料 第1回岩倉市子ども行動計画策定委員会次第  
資料1 岩倉市子ども行動計画策定委員会委員名簿  
資料2 岩倉市子ども行動計画策定委員会設置要綱  
資料3 岩倉市子ども条例について  
資料4 岩倉市子ども条例及び子ども行動計画について  
資料5 職員によるワーキンググループで出された「子ども条例」関係条項に係るアイデア・意見  
資料6 子ども参画(ワークショップ案)について  
参考資料 岩倉市子ども行動計画策定にかかわる現状について  
参考資料 岩倉市子ども条例

1 委嘱状交付

2 あいさつ

3 自己紹介

4 議事

(1)委員長及び副委員長の選出

- ・委員長に小松尚委員、副委員長に伊藤一美委員が選任された。

(2)子ども条例及び子ども行動計画について

現状・課題について

- ・普段子どもと接して感じること、お母さんの連れ子で男の人が入ってきた時に子どもへの虐待の事例があった。父親もしくは母親が異なる場合などは、気をつけて子どもの様子を見るようにしている。
- ・子ども会について、子どもは加入したくても、高学年になると親に役が回ってくるなどの理由で親の意向で退会するケースが多いと思う。加入率70%弱というのは西尾張地域ではいい方だと思う。子ども会が親の託児的な場になっている。
- ・青少年の問題については、岩倉市ではあまり議論されていない。子ども条例の時に子どもの権利の議論をしてきたので、この行動計画で改めて子どもの権利を入れるのかどうか、他の問題も入れるべきではないか。
- ・小学校に通う子や親の多くは、児童館活動を知らないのではないか。
- ・いわくら塾の子ども関係の活動をしているが、広域的に友達をつくらうということで「子ども大学」を始めて10年になる。最初は7人の活動だったが、今年は101名に。「子ども大学」に力を入れている。
- ・岩倉総合高等学校は進学者が多くなっている。地域との連携を考えているが、できてい

ないのが小中学生との連携。部活動単位で地域のイベントに参加する場合が多い。岩倉市在住の生徒は80人程度、近年は隣接する一宮や稲沢からの生徒が増えている。

- ・小学校はいわくら塾などのボランティアや児童館などとの協力があり、五条川歩き、史跡歩きなどが行われている。
- ・子ども&まちネットは、「子育て」よりも「子どもそのもの」に軸足が移りつつある。名古屋市で中高生の居場所づくりに関するワークショップを行っているが、その経験から、子どもたちが過ごすテリトリーとして適正なまちの規模は人口4、5万～10万人程度ではないかと思う。人口が小さすぎると学校区が減り、いじめがあった時などは逃げ場がない。子どもたちが愛着を持つ広さという点でもこの広さが適正ではないか。  
子どもの居場所について
- ・子どもたちのために、「場所」と「子どもたちと一緒に時間を過ごせる人」をセットでどう用意できるかが課題。
- ・名古屋市での事例で言えば、ワークショップなどの場に参加してくる子の発言は優等生で、参加できない子どもの代表に必ずしもなっていないと思う。本当に子どもの立場に立つと「ゲームセンター」「カードゲーム」などの意見も出てくると思う。子どもの立場に立つか、教育指導型の立場に立つか。

### (3)子どもの参画(ワークショップ案)について

- ・子ども会事業とバッティングしないように進めてもらえるといい。
- ・プレーパーク案について、1回だけでなく継続的に行わなければ適正な評価ができないのではないか。
- ・岩倉総合高等学校には「流通管理系列」「アート・デザイン系列」など7つの系列があるが、総合科であり、7つのコースに分かれているわけではないので誤解のないように。小中学生との交流を考えたい。プレーパークの方でも関係できるのではないかと思う。

## 5 その他

- ・第2回は、8月7日(火)の午後2時から開催する。